

令和4年度第3回三島市国民健康保険運営協議会会議録

日 時 令和5年2月9日(木) 開始:午後3時30分 終了:午後4時17分

場 所 三島市保健センター 東館1階フロア

出席者 委 員 村田耕一会長
高橋徹司 三枝直恵 高林和弘 伊東忠彦 高田昌子
吉富雄治 渡辺貴 三宅秀樹 齊藤彰久 土佐谷純子
宮下知朗 河野月江 佐野淳祥 大石一太郎

事務局 臼井健康推進部長
(保険年金課) 沼上課長 戸塚係長 伊奈主査
(課 税 課) 鈴木課長 松田課長補佐
(市税収納課) 勝又係長
(健康づくり課) 佐野課長 山口課長補佐

区 分 公開

傍聴人 0人

内 容

運営協議会

- 1 村田会長挨拶
- 2 事務局より委員定数報告(17人中15人の出席により開催要件を満たす)
- 3 議事録署名人として、高田昌子委員、齊藤彰久委員の2名を選出。
- 5 議題
(1)第1号議案(報告)「令和5年度 国民健康保険特別会計予算(案)について」
○事務局より資料に基づき説明

○ 質疑応答

会 長: わたしから一点だけよろしいでしょうか。令和5年度の収納率ですね、一般の医療分に関しては95.28%に目標収納率を上げています。令和4年度の予算から0.4%上げられていますが、根拠、数字上の合わせではないと思いますが、目標収納率を上げた理由を教えてください。

事務局: 収納率につきましては、景気の動向ですとか直近の収納率等々加味しながら算出させていただいているところです。

会 長: わかりました。ありがとうございました。

委 員: 20ページの保健事業費のところですが、今年度に限ったことではないのですが、時々市民の皆様に関われるんですけども、説明のところを見ますと年6回の医療費の通

知と郵送費を合わせると年間で700万くらい、いつも使っているということになるんですけども、年6回というのは定めがあって年6回になっているのかということと、実際これだけ使っているという自覚を持っていただくという意味合いが大きいんだと思うんですが、実際どんな風に効果が出ているのか出ていないのかということですね。中には、何のために送ってくるんだという声も聞くんですけども、年間700万は決して少ない額ではないと思うんです。その辺り伺いたいと思います。

事務局：医療費通知につきまして、何回で送らなければならないかということの定めというのは特にはございません。ただ、こちらの方で実際の受診の状況を一覧で書いてお送りしますので、2か月分くらいずつお送りした方が記載の量としても丁度よろしいかなというところで、2か月分ずつ6回に分けて送らせていただいております。また、医療費通知の効果というところですが、実際にご自身が病院にかかったことによって自分の負担した金額以外にもですね、これだけの医療費がかかっているのですよということを、みなさんに知っていただく、そこから振り返りをしていただいた上で、例えば医療費を少しでも抑えるために夜間の受診を控える、土日ではなく平日に受診する等の医療費を削減していく、そういったところに意識を向けていただきたいという意識啓発の部分を主眼としてお送りさせていただいております。ただ、実際のところ意識啓発というところでお使いいただいているところでの費用効果について、それを検証できるような状況がございませんので、それによってどれだけの効果があるのかというところを数字で表すというのは難しいところではあるのですが、みなさまに是非、自分の医療費の裏側にですね、自分のお財布から出ていく金額の裏側にこれだけのお金が動いているということを知っていただきたいというような意図でお送りさせていただきます。

委員：保険給付の関係は、出産育児の関係が実際かかる経費に合わせるとということで、42万から50万になると、2号議案に出てくるとは思いますが、いいと思います。5款保健事業費、データヘルス計画の関係の委託先と計画内容、国保の関係は市民周知が難しいと思いますがどのような周知方法を考えていますか。それから、2項の特定健診の関係の人間ドックの推移この辺は、過去3年なり5年なりどのような推移になっているのか聞かせていただきたいと思います。

事務局：まず、データヘルス計画の委託でございしますが、来年度プロポーザルを実施しまして委託先を決める予定でございします。ただ今まで実績等、計画をつくっている業者がありますので、そういったところを見ながらプロポーザルに応募していただけるというような形になります。内容につきましては、今期の計画で、市民の方がどのような健康状態であったか特定健診の結果やKDBシステムからデータを抽出しまして、分析し、その結果により今後どのような保健事業を進めていくかということ計画策定していく予定でございします。市民への周知については、パブリックコメントを市民の方に出しまして、ご意見を伺う予定でございします。計画につきましては、ホームページにも掲載をいたしますので、市民の方も計画内容をご覧になれるという形にはなります。

事務局：人間ドックの受診者の推移ですが、令和3年度の実績ですと1日人間ドックは384人、令和2年度は356人という実績になります。今年度につきましては、かなり受診者が増えておりまして、おそらく令和3年度を超える見込みであります。

(2) 第2号議案（報告）「出産育児一時金の改正（条例改正）について」

○事務局より資料に基づき説明

○質疑なし

(3) その他（情報提供等）

○事務局より資料に基づき説明

○ 質疑応答

委員：マイナンバーカードの保険証利用ができる病院、診療所、薬局の件数が書かれていますが、分母がそれぞれいくつかわかりますか。

事務局：分母の数え方というのは、はっきりとしておりません。厚生労働省のホームページに掲載されている、実際にこの医療機関から「使えます」という申請がありましたという一覧からのカウントなので、例えば大手チェーンの薬局は支店の数ごとに1件1件載っているんですね。なので、それが全体で何件ある内のとういところが、分母がはっきりとお示しできないのが実際のところではございます。申し訳ないのですが、今使えるのがこれだけです、という状況となっております。

委員：わかりました。今後、わからないということですよ。100%になるかどうかは。例えば、医師会さんであるとか、歯科医師会さんであるとか、薬剤師会さんの件数はそれぞれわかるわけですよ。もちろん、加入してない所もあると思うんですけども。その件数は、わかりますか。

事務局：できれば、それぞれ医師会様、歯科医師会様、薬剤師会様からお答えいただ方が正確な数字があるかと思いますが、お願いできますでしょうか。

委員：三島市医師会はA会員が75人くらいで、プラス医師会に入っていない医療機関があります。病院も75人には入っているので、80前後とだけいただければいいのかなと思います。

委員：歯科医師会は会員が60人程度。実際に稼働している医院としては50程度だと思います。この記録からいくと半分は利用できると思います。もちろん、非会員もおりますので、そちらの数は不明です。

委員：薬剤師会のA会員は55くらいですが、実は46カ所というのは、どちらかというとドラッグストアの方がすごく進んでおまして、三島市薬剤師会の調剤薬局や個人で経営している薬局については、わたし自身も今申請を出しておまして3月いっぱい出来上がるかどうかという部分があるので、こちらの数については会員ではない大手のチェーンのほうが進んで取り組んでいるという部分が多いのかなと思います。

会長：ありがとうございました。

令和5年3月6日

会議録署名人

高田 昌子

斎藤 彰久